

式辞

新入生の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

保護者の皆さま、本年度も保護者の皆様と一緒に会場で入学式を迎えることができました。ご息女ご子息のご入学を心よりお祝い申し上げます。

さらに、本日はご来賓として、

学校法人名古屋石田学園 理事長 石田正城 様

衆議院 議員 いとう ただひこ 夫人

東海市 市長 はなだ かつしげ 様

知多市 副市長 たちかわ たいぞう 様

愛知県議会 議員 しま たかのり 様

星城大学後援会 会長 でぐち かつみ 様

星城大学同窓会 会長 かしわぎ かつとも 様

学校法人名古屋石田学園 理事 たにぐち まさあき 様

をはじめ、ご来賓のご来駕（らいが）を賜っております。

衷心（ちゅうしん）より御礼申し上げます。

新入生の皆さん、おかけください。

金山駅に「星を仰げ」というメッセージが掲げられています。お気付きになったでしょうか。

「星を仰げ」は、昭和41年（1966年）の2月の創立者の講話からの言葉になります。

この言葉を発した創立者の想いについては春先の講義へ持ち越したいと思いますが、

この「星を仰げ」には、皆さんのように進学をして大学生になったり、就職をして社会人になるなど、新たな一歩を踏み出そうとしている皆さんを鼓舞しながらも見守る創立者の応援の気持ちが込められています。

さて、

今から、おおよそ八十数年前、戦前になりますが、創立者は、小さな私塾を立ち上げました。そして第二次世界大戦直後の1945年、日本が連合国軍の占領下にあつたところに、英学塾を設立しました。

このとき創立者は、

英語を学ぶのは、言語そのものを知るのが最後の目的ではなく、世界に目を向け視野を広げ、世界の国々の道徳や科学や文化を理解し、摂取し、人格を養い、平和な文化国家の実現に寄与するためである

と教育構想を表しました。当時の日本が、国全体として、視野が狭く、国際社会の中で適切に振舞えていなかったのだと考えたのです。

このようなルーツの下、高等学校設置や短大設置を経て、設立されたのが本学、星城大学です。

このような想いが、星城大学の教育理念である建学の精神「被我一体」の根底に流れています。

みなさんがこれから4年間、本学で学生生活を送る中で「自分づくり」という言葉に幾度となく出会うと思います。この「自分づくり」という言葉は、本学の創立者が建学の精神をまとめたときの言葉である、

「日々に新たなる 我を磨き上げ造っていく」
が語源になっています。

「夢の実現のために、自分を磨き続け、自分を造り上げる。そして、造り上げた力によって、これまで多くの
人から受けてきた恩に感謝し、社会に恩返しのできる人
となる。」ことを目指す言葉です。

そして本学の学位プログラムや取組みは、建学の精神の
下での「自分づくり」の具現化を目指し「知識のみなら
ず知識の使い方を学ぶ」ようデザインされています。

本学での学びと、多様な人々との交流、また、多様な経
験を通して、視野を広げ、道徳や知識や文化を吸収する。

そして、地域の企業や、団体や、病院で、皆さんが共に
活躍し、地域が発展する。

ひいては、そこに住まう家族が豊かに、そして平和な
日本の社会が、世界の国々とともに発展していく。

そのような幸せにあふれる未来の社会を思い描き、そ

のような未来の社会を創造する一員になること、すなわち「自分づくり」を目指してほしいのです。そしてそれが、星城大学が建学の精神として掲げる「彼我一体」への道のりだと確信しています。

ではそのために、大学生活の4年間を、具体的には、どのように行動すればよいのでしょうか？

参考にしてほしいものの一つとして、創立者の行動規範を紹介します。

それは、

「吾、何であるか」「吾、何によって有り得るか」「吾、何を為すべきか」
です。

しかしながら、このままでは少し抽象的で分かりにくい表現かもしれません。新入生の皆さんに寄り添った表現に言い直すとすると、次のようになるのでしょうか。

一つ、自分は、何を学びたいのか

一つ、自分は、何ができるようになったのか

一つ、平和で豊かな社会に寄与するために、自分は将来、
どうなりたいのか

新入生の皆さんには、この3点を、くりかえし考え続け
ながら大学生活を深めて頂きたいと思います。

高い壁や困難にぶつかって苦しいとき、悲しいとき、寂
しいとき、そしてどうにもならないとき、俯く（うつむ
く）ことなく、星を、そして、星空を仰いでください。

そして、何度でも繰り返ししてほしい。

一つ、自分は、何を学びたいのか

一つ、自分は、何ができるようになったのか

一つ、平和で豊かな社会に寄与するために、自分は将来、
どうなりたいのか

これを、繰り返し自問自答しながら、日々に新たな「我」
を磨き上げ造っていくこと、つまり、皆さん自身が本学

での学びを通して「自分づくり」を深めていくことを期待したいと思います。

最後になりますが、星城大学へようこそ。

令和7年4月3日

星城大学

学長 石田 隆城